

第1回 ラストワンマイル・モビリティ／自動車 DX・GX に関する検討会

委員発言要旨

日時：令和5年2月20日(月) 10:00～12:00

場所：中央合同庁舎第3号館 1階共用会議室

※オンラインによる参加も可能

※事務局からの資料説明の後、委員より以下の発言があった。

ラストワンマイル・モビリティの現状等について

- ・ 「ラストワンマイル」は地域によって多様。それにどう応えていくかについては、定型的に決められるものではない。
- ・ 供給側から需要を掘り起こすというよりも、需要から供給を作っていくという視点が必要。
- ・ 協議会を最大限に活用することが重要。例えば、空白地域をどう定義するか。事業者協力型自家用有償旅客運送を議論するにあたって、事業者の営業区域はどうか、複数の事業者についてどうリスク分担するか。細かい方法論まで落とし込まないと実際は回らない。
- ・ 幹線は、定時性・速達性・快適性を向上させ、支線はきめ細かく、気兼ねなく、冗長でないものを提供する。乗り換えをしたくない人に対しては乗り換え拠点を魅力的にする。MaaSで乗り継ぎ、結節を解決することも大事。これらを通じて「おでかけウェルカム社会」にする必要がある。
- ・ 「エリア一括協定運行事業」はMaaSとの親和性が非常に高い。ラストワンマイル・モビリティについても盛り込んでほしい。
- ・ タクシー、乗合タクシー、自家用有償旅客運送、互助運送等の複数の手段が地域にあり、利用者が自分にフィットするものを選択できる。そのような地域社会を作れたらと考えている。
- ・ 移動インフラが、地域ニーズや利用実態に比してオーバースペックとならないように配慮すべき。中規模の地方都市においては鉄道、バス、コミュニティバス、福祉バス、買い物バスやタクシーが稼働しており、コミュニティバスは人がほとんど乗っていないのに何本も運行されている一方、タクシーは呼んでも来ないことも多い。
- ・ 移動サービスとその対価についても整理が必要。例えば、高齢者が免許返納をする際に、自分で運転するリスクへのコストとタクシー利用のコストを比較するが、目先のコストで判断がされがちになっている。自家用車は便利で安く、タクシーは便利だけど高いという意識を覆すことが大事。
- ・ 今後の地域公共交通に関しては、まずは行政による財政面での支援と地域の既存事業者を活用することを大前提としつつ、交通事業者による能動的な取組を促しながら交通サービスの確保を図っていくことが重要。また、利用者への運賃補助等のサポートも重要。
- ・ 「駅まで行った後に階段を上れないのでどうにかしてほしい」という要望も増えてきている。今は運転手がホームまで付き添って連れて行っているが、無人駅が増えてきているので負担が大きくなっている。バリアフリーも考えていかないといけない。
- ・ 小規模自治体を中心に、家計に占める自家用車の維持費用が公共交通への支出額を切り詰めて

いる実情があり、今回の検討会ではこれをクリアしていく必要がある。

- ・ 移動ニーズ自体が小口化・多様化してきている。一昔前であれば駅や病院といったような最大公約数となるような目的地を交通サービスがカバーしていればよかったが、そのような目的地がない小規模地方公共団体も出てくるなど、移動ニーズが分散してしまっており、交通サービスをどう当てはめていくかが難しくなっている。
- ・ 交通空白地に関しては、各交通モードや移動手段提供主体がタイルのように厳密に役割分担できるものではなく、各々のサービス提供領域を少しずつ広げることで「のりしろ」を作っていかなければ解消できない。

タクシーについて

- ・ ドライバーについては、10年後にどのような年齢構造になっているかを見据えて議論していくべきではないか。
- ・ 一般タクシーが地域公共交通会議の議題になり、公共交通政策を担う役割を果たせるようにすることが必要。
- ・ タクシー、乗合タクシーについて、高齢者のニーズに対応するものとして期待。福祉輸送について、必要とする者は増える一方で、担い手の確保は容易ではない。
- ・ 地方部については移動手段の足がなくて困っており、乗合バスの退出が自由になっている中、タクシー事業は公共交通機関の一躍を担っている。
- ・ タクシーはバスに比べて補助金があまりないため、地域交通の一躍を担っている機関として何らかの形でサポートをいただきたい。利用者に対して利用チケットを出す方法は、バスへの補助よりも安上がりになる場合があるのではないか。
- ・ 福祉車輦についても、より使い勝手のいいものが出てくることが重要。
- ・ 自動車運転者の労働時間等の改善のための基準（改善基準告示）により労働条件が変更されることになると、（担い手確保が）どうしようもない状況に陥りかねない。このため、法人タクシーと個人タクシーをうまく融合させる等、運転者の不利にならない形で働き方も変えていく必要がある。
- ・ 営業エリア（営業区域）について、営業エリアが設定された当時と現在の生活圈やまちのあり方は変わってきている。
- ・ グループ会社間であれば遠隔点呼も活用できるようになった。地方部ではタクシー事業者の社長が運行管理をずっと担っており無理が生じているため、地方部でこそ、こういった遠隔点呼は重要。しかし、会社間で遠隔点呼を活用することは現状難しい。こういうものを見直していく必要がある。
- ・ 交通不便地域において、営業所に求められる最低車両台数の緩和が図られ、1台、2台となれば、地域のタクシー事業者がサービスを提供しに行くこともあるだろう。
- ・ 個人タクシーについては、人口30万人以上の地域でのみ参入できることとなっているが、小規模都市でこそ個人タクシーの事業主が進んでサービスを提供できるような仕組みも必要だろう。また、個人タクシーが運送サービスを担って、法人が運行管理を担うといったこともやっていないといけない。
- ・ 新型コロナウイルス感染症を受けて、タクシー業界内では1万数千台減車しているが、車検・

保険料が高くてなかなか増車できない。このような事態は地方の方が多く、元の車両数に戻すのに時間がかかる。

- ・ 営業地域の統合・見直しにより隣接地区を柔軟に考えていくことも重要だろう。

乗合タクシー等について

- ・ オンデマンド交通については、採算性・効率性を追求した事前予約制の採用やピーク時の利用制限により、必ずしも利便性の高い移動手段とはならない。バス、タクシーや乗合タクシーを有機的にミックスする必要があるのではないか。
- ・ 地方部では呼出し型でタクシーサービスが提供されるケースが多いので、東京と同じように流しとメーターでビジネスをしていくことに限界があるのではないか。そのような「呼び出し」主体地域においては、タクシー事業制度を再編することが期待される。
- ・ 最近ではアプリが高度化して、タクシーの相乗りと乗合事業が極めて相対化しているため、地方部のような「呼び出し」主体の地域においては、メーター運賃を適用する小型貸切りと、相乗り・定額・サブスクといった運賃制度を適用する小型車両による乗合を兼務させることも一考の余地があるのではないか。
- ・ おでかけ交通（乗合タクシーによる移動サービスの提供）を入札で実施する地方公共団体も出てきているが、タクシー事業はメーターに基づき運賃が決まるため、補助や助成がないとなかなか手を挙げづらい。
- ・ 乗合、乗用、相乗りの区分は利用者には関係ない。利用者のニーズから考えていくことが必要。

自家用有償旅客運送について

- ・ 「地域交通の検討プロセスに関するガイドライン」など、国のマニュアルは、地元に対する説明責任を果たすためのツールとなっている。本当に使いやすいものになっているのか検討していきたい。
- ・ 「地域交通の検討プロセスに関するガイドライン」が現場ではほとんど認知されていないことへの改善が必要。
- ・ 地域公共交通はこれまで多くの地域においてバス・タクシーで担ってきたが、それが困難な交通空白地域では自家用有償旅客運送でカバーしている。しかし、自家用有償旅客運送についても、ドライバーの確保に大変苦勞している。また、運行管理や保険などの必要コスト等に対して収支面で課題があるので、一定の見直しが必要ではないか。
- ・ 事業者協力型自家用有償旅客運送の仕組みが作られたが、効果として期待された自治体の負担軽減等が本当にあるのかは疑問。
- ・ 交通空白の定義が明確ではないこともあり、エリア・時間の条件次第では都市部でも交通空白が認められてしまい、都市部におけるクリームスキミングのような参入にもつながる可能性がある。このため、交通空白地に関する明確な定義が必要。

DX・GXについて

- ・ 個々の異なる需要を拾っていくにあたって、デジタル化は重要なツール。
- ・ DXについては乗り継ぎ関係を中心にデータが不足している。ラストワンマイルは乗り継ぎが

大事であるため、しっかりとデータを取ってほしい。

- ・ DX・GXに配慮した持続可能なサービスを本気で考えるのであれば、買物、通院等の目的に対して、自宅から行くことだけの発想ではなく、目的物が地域にやってくるという発想ももって地域の最適解を探していくべき。
- ・ 地方ほど運行管理者などの人員の雇用ができないので、IT化・DX化を進めていく必要がある。
- ・ 2030年に向けて、今後は市町村で契約する公用車等については、EV車又はFCV車でないと契約を結ばない可能性があることと知らされた。そういう会社がないとできないということになるので、助成が必要だろう。

以 上